

主査 杉原先生へのインタビュー

アクセシビリティの研究では 技術だけでなく社会学や医学などの「知見や観点」を持つことが必要です

AIスーツケースがどう進化すれば白杖を完全に代替できるようになるかな？

この研究会ではいくつかの知見や観点から課題解決にあたれたらいいと思います

・制度とユーザー
・技術と制度
・ユーザーと技術など

杉原先生の発表がまさにそうでしたね

コンピュータや技術が中心の話ではなかったけど介護などの現場で起こっている生々しい課題を感じました

「介護における要配慮情報の記録・共有方法の適切性について」



暴力や過度な暴言



さまざまな要配慮情報

共有方法は書き手の技量に左右される自由記述でいいの？

介護と看護のギャップ

次に移る施設にも情報共有すべき？

情報共有するメリット

プライバシー

プライバシーに配慮して情報共有しなかった結果話したくないことを何度も尋ねられてしまうケースも

多様でセンシティブな情報の取り扱いには技術を使う時にとても重要になる話ですよ

生成AIの進歩でこの研究会にどんな影響があると思いますか？

期待もあるけどプライバシーに関わる情報をどこまで使っていいかは議論が必要だと考えています

そのうちそういう研究も出てくるんじゃないですか？

例えば私が将来老人ホームに入ったとして自分の排泄や入浴の情報は学習してほしくない気が...

でも時代が進んでそれが当たり前になれば気にならなくなるのかな？

これまで露骨に管理自分が管理されることにゲンナリしている

便秘なので食物繊維多めのメニューにします

数十年後の山本→

技術だけではステキな未来はこないそう

ヤンキー

唐突ですが読者の皆さんアクセシブルなプログラムの書き方ってご存知ですか？ぜひ調べてみてください！

アクセシブルな書き方になっていないと画面読み上げ機能を使っても全然意味がないんです！

私はプログラムは作らないけど画像に代替テキストをつけるくらいならできそう！

やらねえよりマシなはず

